

厚生労働科学研究費補助金（地球規模課題解決推進のための行政施策に関する研究事業）

保健分野における、新型コロナウイルス感染症や、三大感染症等に関する  
国際機関への我が国からの戦略的・効果的な資金拠出と関与に資する研究（21BA1001）

## 分担研究報告書

分担研究課題： 日本の拠出に関する研究

研究分担者： 若林真美 国立国際医療研究センター国際医療協力局  
グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

### 研究要旨

新型コロナウイルス感染症に関する国際的な枠組みである ACT アクセラレータ（Access to COVID-19 Tools Accelerator）を中心とした国際的な新型コロナ対策への枠組みへの拠出金、及び感染症分野も含めた保健医療分野への日本からの多国間援助に関する拠出について検討した。米国やドイツに続き、日本は世界第3位の ACT アクセラレータへの拠出国であり、新型コロナ対策への存在感を示していると言える。一方、2019年における保健分野における多国間援助に関する拠出は、日本の多国間援助に関する拠出の全体額を鑑みると比較的少ないと考えられる。今後、ポストコロナにおける健康危機管理体制強化に向けて国際保健分野への拠出金とその拠出額に見合った、効果的・戦略的な関わり方が重要になってくる。

### A. 研究背景

日本が国際社会の一員として、持続可能な開発目標（SDGs）における保健関連目標（SDG3）達成に向けて貢献していくために、新型コロナウイルス感染症等を含む感染症分野に関して、グローバルファンド（GF）や世界保健機構（WHO）、Gavi ワクチンアライアンス（Gavi）等の国際機関・団体に対する、日本の戦略的・効果的な関わり方について分析することが求められる。

### B. 研究目的

新型コロナウイルス感染症に関する国際的な枠組みである ACT アクセラレータ（Access to COVID-19 Tools Accelerator）を中心とした国際的な保健医療の枠組みを俯瞰し、新型コロナウイルス感染症を含めた保健医療分野への拠出金分析

を通して、日本からの国際機関・団体等への資金拠出の在り方を議論し、今後の議論に資する資料を提供する。

### C. 研究方法

本研究は3年計画で、感染症分野を含む保健医療分野への政府開発援助（ODA）を中心として資金援助の流れを定量化する。初年度は、ACT アクセラレータ関連文書、WHO のガイドラインや政策勧告関連文書をレビューし、OECD（経済協力開発機構）の開発援助委員会（Development Assistance Committee : DAC）が取りまとめる、ODA 及び他の公的・民間資金の流れに関するデータベースを用いて多国間援助の分析を行い、国際的な新型コロナウイルス感染症の枠組みへ日本が貢献する意義、資金拠出の在り方について検討し

た。また、ACT アクセレータの1つに含まれる新型コロナウイルス感染症のワクチンの公平なアクセスを確保するための枠組みである COVAX ファシリティ (COVID-19 Vaccine Global Access Facility) に関する、日本の資金拠出の変化についても検討した。

本研究プロジェクトの研究内容を発信していくためのプラットフォームとして、研究プロジェクトのウェブサイト (<https://oda.ncgm.go.jp/>) を立ち上げた。なお、このウェブサイトは研究班全体の情報発信プラットフォームであり、3つの課題①GFやWHO等の国際機関の戦略や活動内容について分析し、これらの機関のガバナンス会合等における日本政府の対応についての提言、②日本による感染症関連の国際機関・団体に対する効果的・戦略的な拠出と関与方法について現状分析と提案、③日本の製品や技術の国際展開を推進するうえで関与すべき国際機関の特定やその関与方法についての提案、に関する情報発信を行っている。また、本ウェブサイトにおいて、2018年にグローバルヘルス政策研究センターが日本政府等と協力しドイツ財団の支援のもと設立した Japan Tracker ウェブサイトの発展版となる、開発援助の可視化の分析結果も来年度以降、含まれる。

## D. 研究結果と考察

### 1. ACT アクセレータと日本政府の関わり

新型コロナウイルス感染症に関する国際的な枠組みである ACT アクセレータは、Strategic Plan & Budget 2021-2022 の戦略目標を以下のように設定している。

- 1) ワクチン：COVAX ファシリティ支援国である 91 か国における新型コロナワクチン接種率が 70%になるように支援する。
- 2) 体外診断用医薬品：100 体外診断用医薬品を1日あたり 10 万人の規模で 144 か国において実施できるようにする。
- 3) 医薬品：1 億 2000 万回人分の治療薬を低中

所得国、高中所得国に向けて配布する。

- 4) 個人用防護具：270 万人分の保健医療人材に向けて、低中所得国、高中所得国に向けて配布する。

これらの目標に対して、2021 年 10 月から 2022 年 9 月までの 1 年間に必要な予算は、全部で 234 億ドルと試算されている。日本は、ACT アクセレータに対して、2020 年から 2021 年 10 月時点までにおいて 12.1 億ドルを拠出する約束しており、これは、米国 (63.1 億ドル)、ドイツ (24.9 億ドル) につぐ世界第 3 位の拠出約束額である。中でも、その大半にあたる 10 億ドルは COVAX ファシリティ事務局である Gavi に対して行われている。

本研究では、ACT アクセレータへの日本政府の貢献が、一般の人にもわかりやすく簡潔に伝えられるように、ACT アクセレータの仕組みと日本の貢献についての説明動画を作成し、上述した研究プロジェクトのウェブサイト上に掲載している (<https://oda.ncgm.go.jp/results/oda.html>)。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は現在も続いており、今後とも重要討議事項となると考えられる。また時限付き枠組みである ACT アクセレータをポストコロナにおける健康危機管理体制強化への継続的枠組みにしていこうという動きもある。新型コロナウイルス感染症の対策に関わる国際機関・団体において新型コロナ対策が現在中心となっており、各機関・団体の主軸業務であるオペレーションへの影響が出ているという報告もある。拠出金に関しても新型コロナ対策に拠出金が集中する傾向にあり、今後の中長期的な枠組みに向けた資金拠出の在り方とその分配が今後重要な協議のポイントになると考えられる。

### 2. 感染症分野も含めた保健医療分野への日本からの多国間援助に関する拠出

OECD 加盟国である 30 か国 (日本も含まれる) における ODA に関するデータベースがある。公

開情報では2019年が最新となっている。毎年4月に直近3年間の初期データが集められ、12月には各プロジェクト詳細を含む詳細データが集められている。次年の6月から9月にかけて更新作業が行われている。データベースには、OECDが標準化した基準に沿って各国政府から集計されている国際援助の部音別統計（Creditor Reporting System：CRS）がある。CRSにおけるの多国間援助での日本の拠出額の推移（2015-2019）を分析した。

日本の分野別多国間援助として、「保健」「水・衛生」「人口政策（母子保健を含む）」の3分野では、2015年から2019年間で「保健」分野の拠出が総じて大きくなっていった。2019年における日本からの「保健」「水・衛生」「人口政策（母子保健を含む）」への拠出合計は約1億4972万ドルで、そのうち「保健」は、約1億1601万ドルを占める。2019年における「保健」における内訳をみると、「感染症：マラリア/結核/性感染症を除く（約3739万ドル）」「医療サービス（約3541万ドル）」の拠出が総じて大きく、続いて「栄養（約1799万ドル）」「プライマリヘルスケア（約999万ドル）」「保健インフラ（約671万ドル）」であった。

保健分野における日本からの多国間援助の拠出先としては、2019年において、「UNICEF（約4487万ドル）」「国連開発計画（約2388万ドル）」「WHO：任意拠出金（約1716万ドル）」「国連プロジェクトサービス機関（約1058万ドル）」であった。なお、グローバルファンド（GF）に関してはCRSにおいてカテゴリーとして明示されていないため、不明である。

日本からの多国間援助における支援先地域としては、2019年では「中東（約4153万ドル）」「南・中央アジア（約3553万ドル）」「南サハラ（約2940万ドル）」の順で大きくなってきている。

外務省 ODA 白書によると、2019年の日本のODAは、合計189億2535万ドル（2兆637億円）であり、国際機関向け拠出は、約42億4275

万ドル（4626億円）である。上述したCRSによると、2019年の「保健」「水・衛生」「人口政策（母子保健を含む）」への拠出合計は約1億4972万ドルであり、国際機関向け拠出の約3.5%が保健分野への拠出と考えられる。

## E. 結論

ACT アクセレータ関連文書、ならびにOECDデータベースにおける多国間援助への日本の拠出についての分析を行った。2020年以降の多国間援助の拠出金には、ACT アクセレータ等への拠出金、また新型コロナウイルス感染症対策に関連した他の多国間援助機関への拠出金が増額されている可能性が考えられる。

本分析では、多国間援助のみの分析であるが、二国間援助等のデータや、2020年データを含めた分析を次年度以降行い、新型コロナウイルス感染症による、保健分野における拠出金への影響について分析を行い、戦略的・効果的な資金拠出の在り方について提案する。

## F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし

## G. 参考資料

1. 研究プロジェクトのウェブサイト (<https://oda.ncgm.go.jp/>)
2. 研究プロジェクト概要に関する動画 (<https://youtu.be/rElmG62gqgA>)
3. 新型コロナウイルスの国際的な取り組み（ACT アクセレータ）と日本政府の関わりについて説明動画 (<https://youtu.be/yHHixL26uZ4>)
4. 日本の強みを生かした医療の国際展開アプローチの説明動画 (<https://youtu.be/QNO0sDNyXw>)

5. 企業にとって医療の国際展開に必要な7つの  
ステップ説明動画

(<https://youtu.be/9ll6ohO1m2U>)

6. 本年度出版された研究プロジェクトに関連  
する論文等一覧

- Mami Wakabayashi, Yasunori Ichimura, Eiichi Shimizu, Tomoko Nishioka, Yuzuru Kono, Masahiko Doi, Yuriko Egami, Tomoka Kadowaki, Hiroyasu Iso, Noriko Fujita, Global extension of Japanese medical products related to COVID-19: A survey of WHO Emergency Use Listing, GHM Open [Advance publication] Released February 26, 2022
- 若林真美（執筆＝高橋麻奈）コロナ禍における医療の国際展開とCOVAXファシリティ,第66回GCI講演会報告,2021年12月21日開催,  
[https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2022/02/gci\\_66\\_report.pdf](https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2022/02/gci_66_report.pdf)
- Mami Wakabayashi, Satoshi Ezoe, Makiko Yoneda, Yasushi Katsuma, Hiroyasu Iso, Global landscape of the COVID-19 vaccination policy: Ensuring equitable access to quality-assured vaccines, GHM Open, Article ID 2021.01029, [Advance publication] Released November 08, 2021
- 若林 真美, 江副 聡, 米田 麻希子, 磯 博康, 新型コロナワクチンを公平に分配するための世界的取り組み,公衆衛生,85 巻 10 号,697-701(2021)
- 若林 真美, 江副 聡, 米田 麻希子, 磯 博康, 新型コロナワクチンの公平な供給:COVAX ファシリティの取り組み,医学のあゆみ,278 巻 3 号,249-253(2021)